

男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

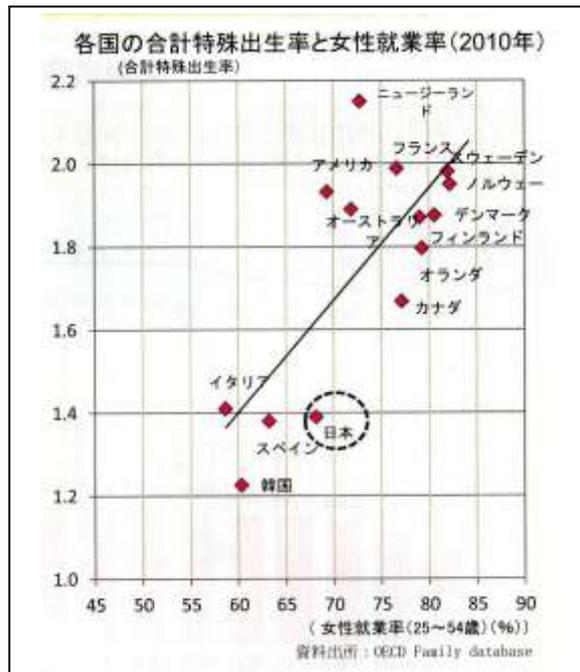
Q18 安倍政権が成長戦略として女性の活躍を位置づけて以来、女性の活躍推進は大きく前進していると聞きますが、出生率が下がるのではないのでしょうか？

※

A18 女性の社会進出が進んでいる国ほど、合計特殊出生率も高い傾向にあります。

諸外国の合計特殊出生率と女性就業率（2010年）のデータでみると、OECD諸国（経済協力開発機構）では、女性の就業率の高い国の方が合計特殊出生率も比較的高くなっています。（図1）

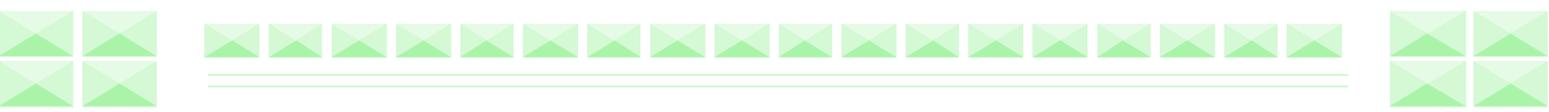
図1



※合計特殊出生率

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当。

$$\text{合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女性人口}} \right\} \text{15～49歳までの合計}$$



日本は、女性の就業率も合計特殊出生率も低い水準に位置しています。また、職業を持った女性より専業主婦の方が子どもを多く出産していると思われがちでしょうがそうでもありません。

女性の就業が進むと一回は出生率が下がり、次にフラットになりその後就業率と合計特殊出生率は日本でも相関します。欧米では完全に相関しています。

日本では、社会の男女共同参画は進んでも「家庭内の男女共同参画」が進んでいない状態があるからです。女性の活躍と両輪で進むべき「男性の家庭共同参画」はまだ遅れをとっております。

それは根強い「性別役割分業」の壁を超えられないからです。

出所 厚生労働省雇用均等・児童家庭局／都道府県労働局
内閣府 共同参画2

